

# 北 河 内 会 報

## 自 然 愛 好 会

2014年12月20日 №.92

北河内自然愛好会発行  
事務局 大東市野崎 3-7-7  
西畑敬一 方

ホームページアドレス：現在調整中 今しばらくお待ちください。

第360回例会 「淀川観察会」 2014年9月15(日) 晴れ

北川ちえこ

今回のコースは、水田や水路があり湿地の植物、特にアサザの群生が印象的でした。カラミンサは初めて聞く名前でもこれだけでも来たかがありました。淀川堤防や河川敷は距離がありましたので、ありきたりの草が生い茂るところは急ぎ足でゆっくり見られなかったのが少し残念でしたが、ヒメクマツヅラ、ダキバアレチハナガサ、カワラニンジン、アメリカネナシカズラ、ネナシカズラなど初めて見たり、もう忘れそうなものを見たり最後の最後までワクワクしました。近ごろ観察会にでる機会が少なく新しい情報が入りませんのでとても楽しみでした。特に、淀川は身近な川ですので気になっていました。知らない植物が沢山ありとても勉強になりました。天気がよく、久々に、知った顔の人とも出会うことができ楽しい一日でした。

◇**牧野駅～道路**ツリガネカズラ(カレーバイン)花、ウラジロチチコグサ、オッタチカタバミ花、エノコログサ花、ヨモギ蕾、コメヒシバ花、セイヨウタンポポ花、アレチヌスビトハギ

◇**道路～水路**オオエノコロ花、マルバアメリカアサガオ花、アキノノゲシ、イタドリ、クロガネモチ果実(植)、ヒナタイノコズチ花、カナムグラ、ヒメムカシヨモギ花、イヌタデ花、ヒメジョオン花、イヌガラシ果実、マテバシイ果実(植)、スギナ、シロツメクサ、ヒロハホウキギク花、オシロイバナ、スベリヒユ花、クルマバザクロソウ花、ヤハズススキ花(植)、イヌビエ花、ホソバヒメミソハギ花、オオアレチノギク花、カゼクサ果実、コニシキソウ果実、コマツヨイグサ花、チドメグサ、チチコグサモドキ花、オニタビラコ花、エノキグサ花、ニラ花、シマスズメノヒエ花、カラミンサ花、クグヤツリ花、アレチヌスビトハギ花、クズ、ホシアサガオ花、ヨシ花、シロバナサクラタデ花、オオニシキソウ果実、ガガイモ花、アサザ花、メリケンカルカヤ

動物・・・ハラオカメコオロギ声、アブラゼミ声、エンマコオロギ声、ミツカドコオロギ声、シオカラトンボ

◇**水田**ホソバノウナギツカミ花、コツブキンエノコロ果実、ノチドメ、ホソバツルノゲイトウ花、アゼトウガラシ花、アゼナ花、セイタカアワダチソウ、ケイヌビエ花、ナガバギシギシ果実、ホソミキンガヤツリ果実、ヒメミズワラビ、キツネノボタン果実、マツバゼリ果実、ツユクサ花、コゴメガヤツリ果実、ジャガイモ花、イネ果実、イヌガラシ花、アメリカタカサブrow果実、タマガヤツリ果実、アメリカセンダングサ花、ヒデリコ果実、オヘビイチゴ、アメリカコナギ花、コナギ花、イヌホタルイ花、アゼムシロ花、ミズガヤツリ果実、エダウチスズメノトウガラシ花(エダウチ、ヒロハの2種が有る)、アレチヂシャ花、シロツメクサ、オオバコ果実、キシユウスズメノヒエ花、ムラサキサギゴケ花、ヒメクグ果実、セイヨウタンポポ花、クサネム花、チョウジタデ花、アメリカミズキンバイ花、ツルノゲイトウ花、ホソアオゲイトウ花

動物・・・ウスイロササキリ声、ヤチスズ声、カヤヒバリ声、エンマコオロギ声

◇**堤防**アレチウリ花(群生)、セイバンモロコシ花、ヨモギ蕾、オオニシキソウ果実、コセンダングサ花、ヒガンバナ花、カラムシ花、ムラサキツメクサ花、マルバルコウソウ花、ヤブガラシ花、メヒシバ花、クズ花、マルバアメリカアサガオ花(群生)、アキノノゲシ、アメリカネナシカズラ花、エノコログサ果実、アレチヌスビトハギ花、ヘクソカズラ花、ノブドウ、ヒメムカシヨモギ花

動物・・・ツツレサセコオロギ声、ヒメジャノメ、ミツカドコオロギ声、ウスイロササキリ声、キリギリ

ス sp 声

◇河川敷までの道 ツルマメ花、ツユクサ花、アキノエノコログサ果実、マメアサガオ花、ホシアサガオ花、ヒメムカシヨモギ花、カラムシ花、キンエノコロ花、ヤハズソウ花、不稔カタバミ花、オヒシバ果実、ナヨクサフジ花、セイヨウタンポポ花、コマツヨイグサ花、メマツヨイグサ花、マルバヤハズソウ花、メドハギ花、メリケンガヤツリ果実、カワラニンジン花、コゴメガヤツリ花、ミチヤナギ、アゼガヤツリ花、

動物・・・モズ、シバズ声、マダラスズ声、エンマコオロギ声、ハラオカメコオロギ声

◇河川敷 メマツヨイグサ花、キンエノコロ果実、オオフタバムグラ花、ホシアサガオ花、ケイヌビエ花、オオイヌタデ花、シロザ花、ヨモギ蕾、カナムグラ、コゴメイ、ホソイ、オオカワヂシャ花、センニンソウ花、オオブタクサ花、イヌビエ果実、イシミカワ果実、カヤツリグサ果実、メマツヨイグサ花、ツルマメ花、ホシアサガオ花、マメアサガオ花、ツユクサ花、ヤハズソウ花、ヒメムカシヨモギ花、メドハギ花、カワラニンジン花、ダキバアレチハナガサ花、ヒメクマツヅラ花、シナダレスズメガヤ sp、ヘクソカズラ花、アレチヌスビトハギ花、ヒナタイノコズチ花、イタドリ花、ガガイモ、カラスウリ、キツネノマゴ花、カラムシ花、ケアリタソウ、スズメウリ花、ニガカシユウむかご、イヌコウジュ花、セイタカアワダチソウ花、クイイモ sp 花、ママコノシリヌグイ花、クズ花、キンミズヒキ花、オオオナモミ、キンエノコロ果実、カワラヨモギ、コセンダングサ、タチスズメノヒエ花、セイバンモロコシ花、メリケンムグラ花、カゼクサ果実、メリケンカルカヤ、アキノノゲシ花、ハナハマセンブリ花、クサネム花、エノキグサ花、ホソバツルノゲイトウ花、メリケンガヤツリ果実、ヒロハホウキギク花、オオクサキビ花、ヤブガラシ花、マルバヤハズソウ花、ススキ花、セイタカヨシ花、ネナシカズラ花、アメリカセンダングサ花、ヒメジョオン花、シロツメクサ花、カナムグラ、ノグルミ、イヌシデ

動物・・・ハラオカメコオロギ声、ミツカドコオロギ声、ウスイロササキリ声、エンマコオロギ声、カヤヒバリ声、キチョウ、ツヅレサセコオロギ声、カルガモ、モズ、ウスバキトンボ

◎参加者：大寿賀尚、大寿賀政子、岸 幹雄、北川ちえこ、北野 謙、北野政子、木村雅行、久保幸子、鈴木永子、武田良子、田中英明、田中光彦、奈良敏子、西尾フミ子、西畑敬一、発 ひとみ、福岡幹也、藤川 寛、安藤香子、磯野久美子、西村徹也（以上 21 名）

§第 361 回例会「きのこ観察会」交野市私市・市大植物園 2014 年 10 月 11 日(土) 田中光彦

もうすぐ台風がやってくるためか暖かい風がそよと吹き、今日の秋晴れの青い空、日差しが強く暑いくらいに感じられた。久しぶりのキノコ観察会。集合時間より少し早めに私市の植物園に着いた。日陰を求めて入口近くの休憩所前ベンチに座っていると、すでに先着の会員さんがナンバンギセルの生えているあたりを行ったり来たりされているのが見えた。

参加者が三々五々集まりだした中、稲原さんに珍しい写真を見せていただいた。茨城県に引っ越しをされた大西夫妻の元気そうな姿でした。大西さんは私よりも古くからの会員さんで、枚方に住んでおられた頃はほとんど毎回参加されていた熱心な方でした。久しぶりに稲原ご夫妻と山行を共にされ、旧交を温められたということでした。

集合時間の 10 時になり、いったん展示室とコスモス畑との間に移動して、昼はここに採集したキノコを持って集まることを連絡し、講師の下野先生から注意と説明を受けました。注意の第一は何と言っても今話題のカエンタケのことです。ないと思うが、もしカエンタケが見つかったら、そっと採集してきて欲しいとのこと。手で触るだけでも危険というのは大げさすぎる、少しくらい触っても大丈夫という話でした。（結果は、見つけた人はいなかったようです）

植物園内の地理に詳しい人とそうでない人の幾つかのグループに分かれて散って行きました。地面はよく乾いた所が多く、草刈りをされた所も多く、なかなかキノコ眼になれない私にはちっとも見つけられなかったが、中には立派なヤナギマツタケを 10 個近くも採集された方がいました。

昼になり、あちこちからキノコを持って帰ってくる会員さんのズボンや袖口にはチヂミザサやササクサ、アレチヌスビトハギなどのヒツキムシがたくさん着いていました。熱心な方ほど多く、しかし成果と比例しないところが残念なことです。

昼食後しばらくしてから、下野先生の同定が終わり、皆でキノコを囲んで先生の解説を聞きました。今日のトピックはユニークな姿をしたノボリリュウタケ（後で知ったのですが、これも食菌で食べられるらしい）で、灰色のその立派な姿・形にすっかり魂を奪われてしまった方もおられました。そしてカニノツメの芳しい？匂いにみなさん、鼻を近づけては酔いしれていました。食べられるキノコでおいしいようなヤナギマツタケも注目を集めていましたが、説明が終わり解散の前に、採集された方がうれしそう顔でゴツソリ取り込んでしまわれたので、ガックリした人もいたようです。

解散後はすぐに帰る人、さらに園内を見てまわる人と、それぞれでした。

●本日観察できたキノコ（アイウエオ順）

アイグロハツ	アカカバイロタケ	アカヤマタケ	アカヤマタケ(近)
アシボソチチタケ	アシボソノボリリュウタケ	アラゲキクラゲ	イタチタケ？
ウズハツ？	ウスヒラタケ	ウスムラサキハツ	ウズラタケ
ウラベニガサ属	カニノツメ	カバイロツルタケ	カワラタケ
キッコウアワタケ	クサウラベニタケ？	クロハツモドキ(近)	ケショウハツ
シハイタケ	シャカシメジ？	シラタマタケ	シロハカワラタケ
シロハツモドキ	タマゴテングタケモドキ	チシオタケ	チチアワタケ
テングツルタケ	ニオイコベニタケ	ニクウスバタケ	ニッケイタケ
ネットアイアシグロタケ(近)	ネナガノヒトヨタケ	ノボリリュウタケ	ハラタケ属
ヒイロタケ	ヒメホコリタケ	フウセンタケ属	フクロツルタケ(幼菌)
ブドウタケ？	ベニタケ属(いろいろ)	ホコリタケ	マンネンタケ
ヤケイロタケ	ヤナギマツタケ	(以上 47 種+α)	ムツノウラベニタケ

◎参加者：下野義人(講師)、稲原良三、大津由紀子、奥田久美子、久保幸子、小路幸徳、鈴木永子、田中英明、田中光彦、東郷弘子、長島照文、中町茶子、中山千代美、波多野恵子、安井一枝、山田良之、安藤香子、磯野久美子、宇都宮克代、樫本真一、古賀聖二、西村徹也(以上 21 名)

第 362 回例会記録 『撰津峡』高槻市 2014 年 11 月 30 日(日) 森南 山岳部

雲ひとつ無い、青空に恵まれて、芥川の自然豊富な環境に身を置いて、時間を忘れるほどの景観、紅葉に加えて石ころ解説付きの至福の例会でした。

ここ撰津峡は北摂地区随一の桜の名所で 3000 本の桜と芥川沿いの溪流景観に名も知れた地元近郊のハイキングコースです。アユ、アマゴの川魚釣り、バーベキューやもみじ狩りでも賑わいます。また温泉も湧き出て一層親しまれています。

JR 高槻駅に 9 時 30 分に集合して駅前バス乗り場から 11 名で撰津峡の入口「上の口」下車する。

バス停から大勢の乗客が下条橋のほうに歩き出す。ひときわやかましい我々に向かって「どちらの団体ですか？」と問いかける 5 名のグループが居られ、挨拶をして自己紹介をする。そのグループは「三好山(182 m)と城跡めぐりのコースに行く」と。程なくして別れてから、直ぐに芥川の釣り人たちの姿と透き通った川中の魚影に目を凝らす。「あつ、居る、いる。」もう直ぐに環境モードが切り替わって、数分前にいた街中のことなど忘れるように周囲の自然に引き込まれる。西村講師の案内で、駐車場横の広場で、3 名の方と合流し、自己紹介、資料を頂いて、計 14 名で観察会が始まりました。歩く距離は約 4 km、芥川沿いに南下します。最初の石ころポイントは河原の石ころ拾いです。釣り人を横目にじゃまをしないように採取します。説明のとおり色々な石があります。花崗岩、流紋岩、砂岩、泥岩・・・。適当な大きさに！と断面を見る為に！ハンマーで石を割り、石の見分け方のプリントを見ながらも

あまり確信がない。後から聞こうと拾っては袋に入れる。

採取石を探しながら下を見続けて、ふと顔を上げると、そこは紅葉の赤、黄、淡い緑、常緑樹の深緑、緑、川面と空の青、白が見事に調和した絵の中のような別世界に感嘆する。

さらに先に進み、白滝の岩層観察、閃緑岩岩脈と花崗岩について説明を聞き、八畳岩近辺で石ころ採取、ここでお待ち兼ねの昼ごはん。大岩の河原でのんびりと川の流れを感じながら紅葉を堪能する。

食後温泉旅館を横目に散策道を歩きながらさらに花崗岩と泥岩の接触部断層、大阪層群と花こう岩の不整合面を探す。立ち入り防止柵を掻き分け観察するが素人目には判りにくく表面を覆う草木を取り払うわけにもいかないので、なんとなく自分に言い聞かせてさらに進む。最後に桜公園の一角に陣取り、山田さん持参のブルーシートを広げ、その上に各自採取した石ころを広げて西村講師の下に分類する。結果さらにチャート、石灰岩、水晶、ホルンフェルスなども採取成果があって、帰路につきました。

ハンマーや防飛物用のメガネまで準備していただき、なかなか出来ない観察会をありがとうございました。

## §§「摂津峡に石を探す」観察会

長島照文

明日から師走という日、今年最後の例会「摂津峡に石を探す」観察会に参加した。時折、谷間のもみじのじゅうたんを踏みしめながらの「石」探索行となった。小春日和の中、流域では紅葉狩りを楽しむ人、家族連れで溪流釣りに興じる人、釣った魚を河原で焼いて食する人々などで賑わっていた。「ちょっと無粋かも」とは思いつつ、私たち一行はその人々を横目に見ながら河原の石をひたすらトントン、カンカン。実は西村先生から先刻「10種類くらいの石を集めてみてください」とのお達しがあったからだ。大きい石を10種類は重過ぎて持って歩けない。小さく割ってその石の特徴あるかけらを集めていくのである。色の異なる石、表面の触感の違う石、組成の変わっていきそうな石などを求めて上の口からゴールの桜広場までを歩いた。この摂津峡は黒っぽい巨岩が多いがその大半が堆積岩の泥岩であることを学んだ。石をハンマーで割ると露出している表情とは全く違った顔を見せてくれることがある。新鮮な断面に太陽光が当たり、キラキラと結晶が光を反射する様子は西村先生のおっしゃるように「美しい」の一語に尽きる。

最後は桜広場で参加者全員の採集してきた石を抛出して西村先生による「花合わせ」ならぬ「石合わせ」の同定会と標本作り。先生ご用意の小さなビニール袋に同定しながら種別を書いて各自10種類前後のお持ち帰りの「石」標本を作り上げた。

「無数に転がる石が人類の生誕以前からの地球の成り立ちを語っている」と改めて思い至った一日だった。石から読み解くだけの知識は残念ながら持ち合わせていないが、かつてのマグマ、あるいは海底の生物由来、また沈殿堆積物、とさまざまな成り立ちを示しているようだ。番外編としては真っ赤に熟れた美男カズラ（サネカズラ）のおみやげもあったようだ。私の標本石は以下の通り。

1.砂岩 2.チャート 3.流紋岩 4.石灰岩 5.石英 6.ホルンフェルス 7.花崗岩 8.泥岩

◎参加者：稲原良三、奥田久美子、久保幸子、小路幸徳、武田良子、東郷弘子、長島照文、中町芥子、中山千代美、西村寿雄、藤川 寛、山田 晃、古田勝子、篠田長政（以上14名）

\*\*\*\*\*会員交流コーナー\*\*\*\*\*（メール発信者・敬称略）

◇メーリングリスト配信より◇

§§<犬も歩けば>この頃の蒸し暑さには、老いの身は付いて行きかねていますが、今朝のウォークで見つけた小さな秋（添付）、ホッとしたひと時でした。秋は来ていました。これからは秋を探して歩きます。（平 研・8/20）

§§<今朝の星田新池>星田新池での早朝体操の深呼吸で吸い込む山の空気には、秋の気配が溶け込んでいるような…。1、体操をしながら見上げた山の上の雲、こんな犬もいるような…。2、まだ覚めやらぬガ（ハグルマトモエ）3、この葉陰で夜を明かしたキタキチョウ（平・8/23）

§§<カエンタケ>高槻「あくあびあ」の高田みちよさんからのメールです。

「先週、高槻市の摂津峡でもカエンタケが確認され、公園課に注意看板を設置してもらいました。昨日報道提供をしているはずなので、近々新聞に載ると思います。摂津峡以外も、高槻市内はほとんど全域でナラ枯れが発生しているので、今後あちこちからカエンタケが生えてくるかも。皆さま、見つけたら教えてください。」とあります。

カエンタケって北河内にもありますか。火炎のようなキノコですね。今度、摂津峡を予定していますが11月になると治まるか。(西村寿雄・8/31)

§§<カエンタケ>カエンタケは、8月19日の交野野鳥の会のメーリングリストで、画像添付(旗振り山で撮影)で報告されました(添付)。触れてもいけない猛毒のこのキノコが増えていくかも分かりませんね。(平・8/31)

§§おおー、立派なカエンタケですね。旗振り山というと「寝屋川」源流ハイクの通り道、そのうち飯盛山にもやってくるか。(西村・9/1)

§§この旗振り山は、交野山と竜王山との間にある交野で一番高い山のことです。(平・9/1)カエンタケの件、交野市でも、注意の看板、ホームページ、10月の広報で対応することになりました。いきものふれあいセンターにも写真展示されます。皆さんも注意してください。(平・9/2)

§§情報ありがとうございます。「触ってもいけない」とのことですが、実際にどのような被害になるのですか。(西村・9/2)

§§カエンタケの毒性は、調べたところによると、致死量3g、触っただけでも皮膚がただれるとのことです。(平・9/2)

§§なんと恐ろしげなキノコ、これも外来種ですか。デング熱、カエンタケ、公園も山も立ち入り禁止になるのでは。(西村・9/2)

§§カエンタケの件メールで拝見しています。四條畷市でもナラ枯れが広がっています。市南端部生駒山麓公園付近や生駒縦走路、下田原の堂尾池ハイキングコースで確認しています。そして、室池園地が去年ぐらいからどんどん広がっています。また、生駒山麓でカエンタケ発生とのことで、生駒市が注意を呼びかけているようです。(太田理・9/2)

§§ネットによれば、カエンタケは文政年間に中毒、死亡の記録があり、分布は日本、中国、ジャワ島などだそうです。(平・9/3)

§§このところカエンタケに対する注意喚起の情報をいただいています、ありがとうございます。大阪府の方からも四條畷市室池園地で発生とのことで、注意喚起、情報収集のメールが届いていますのでお知らせします。情報がありましたらよろしく願いいたします。(太田・9/6)

「当事務所管内ではカシノナガキクイムシによりコナラなどのナラ類の樹木の枯損が発生しているところですが、先日四條畷市の府民の森内において、毒キノコの1種である「カエンタケ」の発生が確認されました。このキノコはコナラなどの切り株などに発生する毒性の非常に強いキノコで、素手で触るだけでも皮膚がただれる、極めて危険なものです。…また、交野市でもこのキノコの発生が確認されており、交野市のホームページにも注意喚起が…」(大阪府中部農と緑の総合事務所より)

§§昨日、星田園地の「まつかぜの道」を中心に歩きましたがカエンタケは見つかりませんでした。「下田原の堂尾池ハイキングコース」ではどのあたりに見られますか。(西村・9/7)

§§上記コースでのカエンタケは見つかっていません。ナラ枯れは、通称どっピー広場と呼んでいるところから50~100m上の、アキノギンリョウソウが出る周辺です。(太田・9/7)

§§ナラ枯れ発生が四條畷市にも及んできているようで、今年田原でもあちこちに見られるようになりました。室池園地でもカエンタケが見つかり、市の方も注意掲示をしています。寝屋川市の方が室池で見たとの情報もありました。今回3度目の出現で、場所は森の工作館から中が池に通じる道、蟹が坂ハイキングコースに下りる手前の、左手の木の切り株辺りです。切り株との接点があるのかどうか、交野市

ではいかがでしょうか。(太田・10/10)

§§枚方の山田池公園では、ナラ枯れの切り株とその根元のあたりに厚手のビニールを貼りつけて菌の発生を防いでいます。またその周辺には立ち入り禁止と印刷されたテープを張り巡らしてそのうえで立て看板をしています。公園内ならそれくらいは必要だと思います。(田中光彦・10/10)

§§カエンタケは枯木の根、倒木の傍に出て、枯木を切る、切らないとは関係ないとのこと。枯木に菌が宿り、菌糸が伸びて近くの地面から出るもので、出ないようにしようとするならば、切り株と倒木を撤去しなければならないでしょう。でも、それは不可能でしょう。交野では、注意標識、広報での注意、学校での生徒への注意、自治会での注意回覧等をしています。見つけたら棒の先でつぶして埋めるしかないのでは?交野ではそうしています。(平・10/10)

§§追伸、40~50年ぐらい前までは、クヌギ、コナラなどは薪、炭焼きの材料として20~30年ぐらいで切っていて、40~50年も経つクヌギ、コナラは里山にはありませんでした。だからナラ枯れもなく、カエンタケが生える環境はなかったのです。

薪、炭焼きがなくなって、コナラ、クヌギなど40~50年の木が今多くなってきて、それがナラ枯れを起こしてカエンタケ繁殖の環境が出来上がったのです。ということは20~30年で切らなければナラ枯れ防止も、カエンタケの発生を防ぐことも出来ないことに…。えらいことですね。(平・10/10)

§§<イチモンジセセリ>時折涼しさが感じられる頃になるとせわしく飛び交うこのチョウ、イチモンジセセリ、南星台のバス停前の花壇で雌雄がもつれて飛び交っていました(添付、下が♂)。チビながら敏捷で、精悍な面構え、好きなチョウの一つです。(平・9/7)

§§<中秋の月>ヒマワリが月を招いていました。(平・9/9)

§§<植物園の雑草>1、待たれる花、ナンバンギセル(万葉ではオモイグサ)。こうべを垂れてもの思う姿、いいですね。2、野菊にはベニシジミ、カメラを向けずにはおれない光景です。(平・9/9)

§§<犬も歩けば>今朝の星田新池は、涼風がひんやり、いつも水面をかすめて飛び交っていたツバメのファミリーの姿は見え、南への旅路についたのか…。別に、淡い半月をかすめて飛ぶ1羽のツバメが体操中に見えました。路には、早くも実を結んで、通るものを待ち構えて茎を張り出したヌスビトハギ、イノコヅチがありました。コナラはカシナガの襲撃に抗して実を付けていました。鳥も草も木も、自分の命を生きている生き様を見せてくれた朝でした。(平・9/15)

§§<ツリフネソウ>秋の花ツリフネソウが南星台のビオトープに満開です。度々の出水で種子が拡散して広がり、この秋は特に見事です。(平・9/17) <キツリフネ>

§§昨日、堂尾池西よりの広場ではキツリフネが咲いていました。少し例年より少なめでした。(西村・9/17)

§§<星田のたんぼ>毎年待たれる秋に咲くサクラタデをたずねて星田のたんぼを歩きました。空振りに終わりましたが、垂れた稲穂に豊穡の喜び、秋のたんぼはいいですね。(平・9/21)

§§<イソウロウグモ>環境講座のスパイダーウォッチング(クモの観察—市大植物園)に参加しました。肉食のこの小さなムシの生き様は凄いです。中でも、ジョロウグモの巣に入り込んで居候を決め込み、宿主が相手にしない小さなおこぼれ餌を戴いて食いつなぎ、そこで卵を産み子孫を残すイソウロウグモ(添付)は、体を2~3ミリの大きさに保つことにより、生き延びる生き方を選んで生きています。小さく生きる生き方には、また考えさせるものがありました。(平・9/28)

§§平さま、いつもすばらしい画像ありがとうございます。イソウロウグモ、私も先日、近畿植物同好会の姫路での観察会のおり、会員の方に教わりました。大きなジョロウグモの巣に居候とは危険を犯してのすさまじい生きざまでですね。(西畑敬一・9/28)

§§<キヌガサタケ?>当地四條畷市で田原中学校が環境学習・里山再生事業の活動をふれあい森周辺で行っています。支援に行くと奇妙なキノコを見つけました。(添付)1.初めは丸いもので中を切ると2.これから伸びてくるようなものがあります。3.付近で同じようなキノコを見つけました。キヌガ

サタケ?とも思いましたがいかがでしょうか。(太田・10/15)

§§仰る通りキヌガサタケかもしれませんね。でも同じ仲間のスッポントケの可能性も捨てきれません。普通はスッポントケの方が見る機会が多いから、スッポントケの方ではないかと私は思いますが、この写真では?です。(田中・10/16)

§§キノコの幼菌の画像拝見しました。キムガサタケかもしれません。ただ、スッポントケの仲間にはよく似た形態を示すものがありますので、やはり専門家にみていただくのが賢明かと思います。(西畑・10/20) (後日確かめに行きましたが、半分に裂いたものしかなく、それはスッポントケのように伸びていました。グラビア画像は“スッポントケ?”としています。ありがとうございました。太田)

§§ お知らせ—本会会員“河内の絵師”岡田雅彦さんが、春の日本画展に引き続き秋バージョンを開催します。所も古民家・東大阪市、大和川の付け替えに功績のあった中甚兵衛ゆかりのお屋敷。「屋敷」で「花」の日本画展Ⅱが11月22日～30日に催されます。今回も秋、冬の花を中心に、癒される空間を演出してくれると思います。ご都合がございましたら、どうぞ皆様ご鑑賞ください。きっとホッとするとと思います。(太田・10/30)

§§岡田雅彦さんの日本画展を出来れば日程を合わせて見に行きませんか。11月27日(木)9:45 近鉄けいはんな線吉田駅5番出口集合、美杜里乃屋みどりのや(東大阪市今米1-4-38)川中邸10:00集合(稲原良三・11/6)

§§稲原さんが率先して岡田さんの日本画展を見に行こうと計画をしていただき、27日10名の方々が参加しました。秋の草花や秋の実の清楚な、そして蛾や蝶がそれとなしにあしらわれて、ちょっとアクセントを醸し出す優雅な絵を堪能いたしました。見終わって後会食も楽しく、話の花が咲きました。岡田さんの応援にもご協力いただき、皆様ありがとうございました。(太田・11/28)

§§天王寺の市立美術館での一水会画展に、岡田三千代さんの大作(受賞作品)が展示されています。レベルの高いこの会の出展作品は皆、見ごたえのあるものばかりですが、岡田さんの作品の前では長い時間釘づけになりました。人けのない、物音一つしない田舎の木造の古びた開いた改札口、そこに一匹のきじ猫が左前脚をわずかに上げて歩み寄っています。その見事な構図、色彩、そこに籠められた日本文化の底を流れる「もののあわれ」、猫の動きに秘められた内に籠もったいのちの力、見ていて思いは尽きません。会期は16日(日)までです。(平・11/14)

§§岡田三千代さんの絵について、平さんのコメントに共感しています。私も見に行きました。人伝てに聞いたところによると日本海側のとある駅舎だと言うのですが、確か去年の絵も同じような駅舎だったと思います。今回も、平さんが評されるように、そして、改札の奥には小さな村の家々の暮らしの繋がりも感じました。岡田三千代さんは先にご案内している岡田雅彦さんの奥さんで、ご夫婦とも素晴らしい絵を楽しませてくれています。(太田・11/18)

§§<教えてください>鶴見緑地で見た樹木ですが名前を教えてください。1・マキのような葉で大きさもその位です。2・ネズのような葉で大きさもその位です。よろしくお願い致します。(北川ちえこ・12/9)

§§カリステモンの1種ではないでしょうか?(天野史郎・12/10)

§§ネズのような葉っぱはカリステモン(ブラシノキ、赤い花が咲いていました)の並びにありましたので、写っていたのは古くなった実だと思います。こちらは間違いなくカリステモンだと思います。葉が大きい方も(画像1)も実のつき方がそっくりですし、実の形も似ています。そう言えば、短い葉の方は花が小さいと思いました。天野さんの推察通りカリステモンの可能性が高いです。来年確認します。謎が解けすつとしました。みなさま、どうもありがとうございました。(北川・12/10)

§§市大植物園をフィールドにして、プロジェクトを組んで2年間に渡って研究された成果が、京大学術出版会から発行されました。開園から60年、諸々の型の樹林を展示する森の植物園の中で繰り広げられている生きている都市近郊の森を、そのCO保有量や植物、哺乳類、昆虫、クモ、チョウ、野鳥など全

てに亘って画像入りで著述されています。(358 ページ、本体 4,200 円 (税別)、執筆者価格 3,360 円 (税別)) で購入できます。ご希望の方は平までご一報ください。私の執筆部分の「野鳥に関する項」は 30 ページです。(平・12/18)

◎会員異動について (敬称略)

退会予告：田島妙子 大東市(2015 年度会費入金済)お世話になりました。2015 度以降会費を振り込まなければ退会としてください。加藤治世 (12/31 枚方市) 西村太三郎 (12/31 生駒市)

退会：谷水美喜男、喜子 (美喜男様死去による自動退会 8/28 枚方市)

◎編集後記

この 2、3 年当会の会報のカラー化が検討されてきました。写真などはより生き生きとお伝えできるのは当然ですが、財政上会の存続に関わることとなります。皆さんご承知でしょうか？当会は来年度創立 30 周年を迎えようとしています。創設以来会費はずっと据え置きです!!

カラー化に向けて、今号は“お試しカラー”を一度出してみようと (実はある知り合いのご好意で) 踏み切ってみました。ただし、グラビア見開き 2 ページ立てです。その他のページが文字ばかりになることもいかがでしょうか。皆さまのご感想、ご意見をお待ちしています。編集等について皆さんのご意見ご要望、またお気軽なご投稿をお願いいたします。(太田)

※カラーグラビアの訂正：1 ページ 2 枚めの「カラミグサ→」は「カラミンサ→」の誤りです。

<p>【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114 ◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507 ◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2</p> <p>北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735</p>
---

目 次

- 第 360 回例会 「淀川観察会」北川ちえこ-----1
- 第 361 回例会 「きのこ観察会」田中光彦-----2
- 第 362 回例会 「摂津峡」森南 山岳部-----3
- 「摂津峡に石を探す」 長島照文-----4
- 会員交流コーナー-----4～8
- 会員異動、編集後記-----8
- カラーグラビア-----別刷り 1～2



「シュンラン」  
本会会員・岡田雅彦氏画